

商工会女性部はまさに
元気と安心をお届けしています。

はちみつ 通信

“どうする伊賀者!?”

スタンプラリー形式の 防災体験イベントを開催

伊賀市商工会女性部(三重県)



私たち伊賀市商工会女性部は、5つの支部(伊賀・阿山・大山田・青山・島ヶ原)で構成し、飛躍して輝ける場所づくりや仲間づくりを目指して活動を行っています。

三重県の北西部に位置し、忍者の地として知られる伊賀市ですが、今までに大きな自然災害が少なく、市民の間には「伊賀は安全だ!」という意識があります。

そんな意識を変えてもらうために、

私たちはビジネスコミュニティ型補助金を活用し、災害時の身を守る行動とお互いに助け合うことができる体験型の防災イベントを企画しました。計画にあたって、役員は応急手当普及講習で心肺蘇生法を学び、救助での1秒の大切さを知りました。

そして2023年9月2日、「どうする伊賀者!?’スタンプラリーで防災体験しよう」をキャッチコピーに女性部主催の「防災フェスタ」を開催しま



祭終了後にヤグラ前にて記念撮影。晴れやかな笑顔の部員たち

「最後まで踊り隊」として
女性部が盛り上げる
デカンシヨ祭

丹波篠山市商工会女性部(兵庫県)





女性部員と消防団の皆さん

した。会場の伊賀市商工会館には、南海トラフ地震を想定した震度7の揺れを再現する「地震体験車」や、火災時の煙を再現する「煙道ハウス」、地震や火災のバーチャルリアリティ、心肺蘇生・AED講習、紙でのお皿製作、非常食の試食という6つの体験を用意。4つ以上体験してスタンプを集めると先着でプレゼントがもらえるスタンプ



女性部役員が応急手当普及講習を受講



VR体験の様子

ラリー形式で、大人から子どもまでたくさんの方に参加していただきました。子どもたちからは、「地震って怖いんや!」「煙で前が見えへん!」などの声を聞くことができ、イベントを通して参加者の皆さんに役立つ体験となったのではないかと感じました。今後も地域に密着した活動を行っていきたいと思います。



「ささゆり」の髪飾りがとても素敵

丹波篠山市は兵庫県の中東部に位置し、レトロなまち並みが残る自然豊かな地域です。黒豆(黒枝豆)や丹波栗をはじめ多くの有名な特産物があります。8月15日(荒天による中止)・16日には「デカンショ祭」が4年ぶりに開催され、今年で70回の節目の年を迎えました。デカンショ祭は県下最大の民謡の祭典で、江戸時代から歌い継ぐ民謡「デカンショ節」が伝える丹波篠山の伝統文化は、日本遺産にも認定されています。デカンショ祭は商工会が実行委員会の母体として企画から運営までを手がけており、女性部も踊りの部門の中心として参画しています。当日の総踊りには揃いの浴衣と、市花である「ささゆり」の部員お手製の髪飾りを着けて参加しました。女性部



黒豆を使った商品開発の様子

はもち前の明るさ・元気を発揮して周りの観客を巻き込んで「飛び込み連」をつくって大きな踊りの輪を牽引し、「最後まで踊り隊」としてデカンショ祭を盛り上げる一翼を担いました。祭の翌日には、早朝から集まってボランティア事業として会場のゴミ拾いを行い、まちの景観を守るために環境美化にも取り組みました。現在、新たな活動として丹波篠山の特産物である黒豆を使った「黒豆グミ」の商品開発に取り組んでいます。デカンショ祭で得たパワーを源に、丹波篠山市商工会女性部の挑戦が始まります!